

会 議 録

会議名	第9回 宇都宮市環境基本計画ワーキングチーム会議		
開催日時	平成14年 9月13日(金) 午後6時30分～午後8時00分		
開催場所	宇都宮市役所 16階中会議室		
出席者	ワーキングチームメンバー		
	小磯 順子	葛谷 理子	眞野 潤子
	大野 邦雄	森本 久子	仁平 隆史
	手塚 賢次	三宅 徹治	平野 正人
	斉藤 軍夫	欠席	林 常夫
	児玉 博利	江川 靖	村上 孝子
	鈴木 誠次	事務局(福田環境企画課長, 他8名)	
公開・非公開	公開		
傍聴者	3名		
議 題	環境基本計画(素案)について		

発言者	内 容
三宅リーダー	<p>本日は、第9回、最後のワーキングチーム会議ということで、前回協議をいただいた環境基本計画の素案をワーキングチームとして仕上げるということで、最終確認を行いながら進めていきたいと思ひます。また、時間があれば、約10ヶ月間の活動を振り返って、メンバーの皆さんの感想などもお話ししていただければと思ひます。</p> <p>ワーキングチームとしての活動は今日で終了いたしますが、環境基本計画に基づく行動というのはまさにこれからですし、素案を作る過程で大切にしてきた協働という言葉を実体化するために、リーディングプロジェクトの一つとして、環境パートナーシップ推進プロジェクトも掲げました。</p> <p>メンバーの皆さんが、何らかの形でこれからの活動に積極的に協力していただくことも大切ではないかと思ひています。</p>
三宅リーダー	<p>前回の会議やその後の市内部の委員会、また、環境審議会などにおいて、素案に関して様々な意見が出されました。それについての対応の考え方が事務局からの資料に示されていますが、何かご意見がございますでしょうか。</p>
葛谷委員	<p>意見反映の区分の中で、4番目の「今後の参考にする」については、具体的に今後どのような可能性がありますか。3番目の「意見の反映は困難である」と違ひがないように思ひます。</p>
事務局	<p>環境基本計画は平成22年までの9年間の計画ですが、必要に応じて見直しを行うことを規定しています。数値目標についても18年度を目標としている項目もありますので、そのような見直しの中で検討していきたいと思ひています。</p>
児玉委員	<p>私も、改めてこの素案を全部読みましたが、基本計画という範囲の中で、よくここまでまとめられたと思ひています。今後、いかにこれを実行していくのかということで、誰がどうやって実行していくのかということが重要なことだと思ひています。</p>
仁平委員	<p>私も同じような意見です。基本計画を作ったときに大切なことの一つに、毎年の結果をきちんと把握して、計画目標に対してどんな状況であるかをフォローしていくということです。これは、計画の中にも年次報告書の作成と示してありますので、市の積極的姿勢を表す一つであると思ひます。</p> <p>もう一つは、きれいな言葉できれいな目標を掲げて、具体的にどう実行していくのかという部分が見えないのが、基本計画としての限界だと思ひます。</p>

	<p>望むべきこととしては、どのように行動計画に移すかということ、計画のどこかに盛り込む、若しくは、ワーキングチームの付帯意見とする方法もあるとは思いますが、行動への繋ぎ方ということ、計画のどこかに表現してほしいと思います。事務局の方でそれが無理ということであれば、議事録の中でワーキングチームの強い意見として、行動への具体的な繋ぎ方が一番大事であり、その施策への反映をワーキングチームとしては求めていくということを確認していただければと思います。</p>
林委員	<p>私も先程の二人の意見と同じです。私は農業者の立場からこの会議に参加させていただきましたが、この度の無登録農薬の問題では、消費者の皆さんに大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。中国の問題が取り立たされる中で、日本の農産物が一番安全だと思っていたのが、私たちの仲間が起こしてしまったということで、現在、全農家が改めて全力で真剣になって取り組んでいます。ダイオキシンや農薬問題など、環境問題に農業者も大きく関係していますので、これからは、環境保全に農業者が第一に立ち上がっていくという運動を起こしていくことで、この計画も生かされると思います。このワーキングチーム会議のことも、仲間達にきちんと伝えていきたいと思ひますし、私もその先頭に立って頑張っていきたいと思ひます。</p>
児玉委員	<p>我々が先頭に立つということですよ。これから私たちがそれぞれの立場で何ができるのかということで、素案の88ページに学校版環境ISOの取組校を増やしますとありますが、どうしたらそれができるのか。あるいは、どうやって学校で環境教育を進めていけるのかということで、そのために新たに先生を増やして取組むとなると、なかなか難しい部分もあります。以前、大野さんからの意見で、環境教育に関するボランティアを派遣するというのがありましたが、私もこれがぜひ実現できればということで、機会があるごとに働きかけていきたいと考えています。</p>
三宅リーダー	<p>素案が固まってきた中で、次の実行に向けての思いも語られ出してきていますね。</p>
事務局	<p>今回の環境基本計画に掲げている施策や事業には、全て担当する課が明記されています。まずは、先程の学校版環境ISOをはじめ、それぞれの施策や事業は担当課が責任を持って推進し、進捗状況を報告してもらいます。そして、その結果を年次報告書にとりまとめて点検するという形で進行管理を行なっていきます</p>

仁平委員	<p>先程私が言いましたのは、施策を展開して市民に環境教育を行なうだけで果たして動くのかなということが現実としてあるからです。みなさんに配慮指針をしっかりと守りましょうと言うだけではなく、より具体的に動かす仕組みに繋げていくことが非常に重要であると思います。事務局の説明にもありましたが、目標値を決めて、責任主体を明確にして、それを年報にして公表するという流れは大切であり良いことだと思いますが、それを踏まえた次の展開をどこかに表現して頂きたいということです。</p>
大野委員	<p>今後、担当する各課がそれぞれ施策や事業を展開していくわけですが、それが環境基本計画のどの部分に関連して行なわれているのか、マップといえますか、市民によく分かるようにしていただければと思います。</p>
葛谷委員	<p>素案の自然環境と身近な自然の部分で、事務局の説明では、施策が重複している部分を整理し直したということですが、62 ページの施策の方向で、自然環境の保全と創造の「創造」の部分は意図的に取ったのですか。</p>
事務局	<p>前回からの整理の中で、創造の部分がどこになるのかということで、身近な自然の「緑化の推進」という中で捉えられるということで削除しました。</p>
葛谷委員	<p>そういう整理の中で、前は自然環境の部分にあった環境指標が、身近な自然の方に移動したということですね。それと関連しますが、現在、市街化区域において緑が不足している中で、緑地率や緑被率については、少し高いところを目標としていますが、樹林地については現状維持となっており、これでは創造までは行かないと思います。市の公園緑地課で作成している「緑のマップ」がありますが、これを見ますと特に中心部には本当に緑がありません。以前は宇都宮丘陵も残っていましたが、今は気候や気温の変化にも影響を及ぼすような緑が中心部では絶対的に足りませんので、「都市空間の創出」という中では重く見て取組んでいただきたいということも、重ねて意見として出させていただきます。</p> <p>また、71 ページで水と緑の快適な都市空間の創出とあります。ここでは、水と緑ということで鬼怒川や鶴田沼は出てきますが、中心部に快適な水辺空間がほとんど無い状況にありますので、先程の緑と同様にもっと目標を掲げていく必要があると思います。</p>
森本副リーダー	<p>環境基本計画というのは、固定したものに対してどうしていくかということを決めたものですが、私の聞いた話では毎年開催している宮まつりには多くの費用がかかっています。特にその中でもごみの始末をシルバー人材センターに頼むための費用がとてがかかっているということです。そういったことに対して、市民一人ひとりがいかにごみを少なくするかということもきちん</p>

	<p>と考えなければいけませんし、この環境基本計画に書かれていることが、そういった色々な祭りや行事などに対してもきちんと反映されなければいけないと思います。</p>
<p>児玉委員</p>	<p>宮まつりは、市や企業そして市民も1世帯あたり50円の費用を負担しています。ごみの始末に関しては、シルバー人材にも委託していますが、昨年からは、宮まつりの終了前にボランティアも拾っています。また、以前にもお話しましたが、集められたごみの夜中の収集も実現しました。</p> <p>そういった行事等においても、物の大切さということをきちんと謳っていくことは重要だと思えます。</p>
<p>森本副リーダー</p>	<p>好ましい市民像としては、一人ひとりが環境への意識を高めて、行政に頼るとか偏ったことに多くの費用がかかることがない催しにしていかななくてはならないと思います。環境に配慮するというのを、あらゆる場面において網羅していく必要があると思えます。</p>
<p>児玉委員</p>	<p>環境基本計画で言えば、配慮指針の中で、そういったことを徹底するというのを宣言するのが第一歩で、それから個別の場面で市民に対して誰がどのように行っていくのかということだと思えます。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>105ページからの主体別環境配慮指針の中で、市の取組としてイベント事業を実施する際に配慮することが明記されています。そういう意味では、この計画は幅広く捉えており、これを実際に色々な活動をする時のチェックリストにするとよいと思えます。</p> <p>それでは、時間も少し押してきました。ここで、これまでの約10か月間の活動を振り返りまして、メンバーの一人ひとりの感想を聞かせていただければと思います。</p>
<p>平野委員</p>	<p>環境基本計画の素案がこのように非常に良いものがまとまったと思えます。私は参加した時から、まずはみんなの意識を変えることが必要だと言ってきました。環境への意識の高い人と低い人がいる中で、この環境基本計画に基づいて、みんなが同じような形で動いていければ良いと思えます。ある程度の目標を持ってやることによって達成感が出てくるとは思いますが、高い目標を持って達成できた人、出来なかった人と二極化するよりは、低いところからでも一つひとつ階段を上がっていくことが必要ではないかと思えます。そして、これからどういう行動をしていくのかということですが、これは市役所が主体になるのではなく、私たち一人ひとりや地域やコミュニティの中で、また事業者の中で考えていく必要があると思えます。そのような輪がだんだん広がって大きな成果に繋がればよいと思えます。それが私たちの世</p>

<p>仁平委員</p>	<p>代で達成できなくても、子供や孫の世代になって必ず生きてくることと思います。</p> <p>先程も申し上げましたが、計画の中で達成できそうな目標を設定して、それがどこまで進捗しているかを毎年の年次報告でフォローし、その繰り返しの中で、少しずつでも前に進んでいくということはそれで良いと思います。しかし、それをどういう行動に繋げていくのかということが非常に重要になってくると思います。これまでの私の経験では、意識の啓蒙だけでは動かないのが現実だと思っています。協働という言葉があるのですから、行政と市民が連携するプロジェクトというのが重要になってくると思います。市民は配慮指針で意識を変えなさい、行政は施策をしますだけで進めるのではなくて、児玉さんのように一つのプロジェクトにして動かしていく仕組みにしていくのがこれから一番大切だと思います。</p> <p>また、近年、環境教育・環境学習が重要だと言われていますが、大学の先生の話をお聞きすると、最近の学生は、環境に対する頭の中の知識は高いが現実のものを全然知らないということです。ですから、先生は、学生に現物を見せるために、大学で教えるのではなくて現場に送り出すそうです。そのためのお金も大学が払ってもいいとのこと。頭の知識と現実がリンクしてこないということが、小学校だけの話ではなくて、大学にまで持ち越されています。環境教育・環境学習の一つの性格として、教えるのではなくて、現場で経験させるのが重要だと思います。</p> <p>また、素案の159ページに推進体制の整備とありますが、仕組みという点で言えば、環境教育・環境学習だけではなくて、体験する仕組みということを入れていただくと、実現するプロジェクトに繋がると思います。</p> <p>また、158ページのD oのところパートナーシップの形成とありますが、パートナーシップだけではなくて、協働とする行動というのを入れると、より分かりやすくなると思います。同じように、159ページの協働による事業の実施とありますが、連携した行動、事業というふうに具体的に踏み込んでいただくと、より分かりやすくなると思います。</p>
<p>大野委員</p>	<p>素案についてはよくまとまっており、他市と比べても遜色のないものに仕上がったと思います。取組を行なう担当部署も明記してありますから、環境への意識の統一を図りながら進めていけるものと思いますし、その結果のチェックもしっかりやっていただいて、私たちも確認していきたいです。</p> <p>また、環境基本計画というのは環境のバイブル的なものであり、素案の計画策定の趣旨にも、基本理念の具体化を図り長期的な施策の方向性を示すと書かれていますが、これをいかに実施していくのが重要になってきます。</p> <p>その中で、2つのリーディングプロジェクトについては、これはこれで仕組みとして良く出来ていると思いますが、できましたら、もう一步踏み込んで</p>

より具体的なものが示せばよかったなとも思いました。例えば、二酸化炭素の排出量の問題にしても、家庭などの民生部門からの排出が多くを占めており、市民一人ひとりがいかに二酸化炭素を減らしていくかが重要であります。そういうものに対して具体的にどうするということを入れていただければと思いますので、そういう意味では、これからの活動に期待したいと思えます。

また、このリーディングプロジェクトのように大きいものではなくても、私が以前に提案しましたさつきプロムナード構想も一つの例ですが、身近なところから身近な活動を行なって環境を良くしていくことも重要です。

いづれにしましても、このようないい計画ができましたので、みんなが興味を持ち、注視して取組んでいけるようになればと思っています。

眞野委員

私は、宇都宮のまちが、目で見て、体で感じて環境が良いまちだと分かるようになってほしいと思い、このワーキングチームに参加させていただきました。今回の環境基本計画の素案の中には、私の理想とするものも数多く盛り込まれており、これが全て実現されれば素晴らしいと思いますが、児玉さんのお話などをお聞きしますと、これを実施するためには色々と難しい問題もあるのだと思いました。配慮指針のように個人個人で取組むべきものと、やはり行政が取組まなければできないものもあります。例えば、道路が電線の地中化などできれいになっていくのは良いのですが、道路の中にも市道や県道、国道があり、管轄が違うために連続性や一貫性を持たない道路が出来てしまいますので、県や国とも連携しながら、連続性や一貫性のある道路を作っていただきたいと思えます。

また、私の住んでいる団地にある公園も、かつては多くの子供が遊んでいましたが、子供達も大きくなって今ではほとんど利用されていません。ぜひこのような場所を大人たちが楽しめるようなオープンスペースとして、芝生を張ったり整備することにより、都市の緑化にも繋がりますから、自治会などで出来ればよいと思えます。これも誰かが言い出さなければ始まらないと思えますが、私などは、なかなか言い出せないのものですから、市の方で後押ししてくれればもっと意見も述べやすくなりますので、そういうところも配慮していただければと思います。

葛谷委員

今日が9回目の会議ということで最後ですが、私は7回目の会議が終わった時点で、とてもあと2回ではまとめられないと思っていましたが、事務局の方も細かいところまでメンバーの意見を組み入れながら資料などを用意していただいて、すごく大変であったと思っています。

ただ、リーディングプロジェクトについては、私も1回欠席しておりますので、未消化というか検討が少し足りなかった気もします。

また、素案の中で「配慮します」という表現が多く使われていますが、なぜ行

動指針にならないのか。地球環境がかなり悪いところまで来ているなかで、「配慮します」という表現に留まっていることに対する不満もあります。環境基本計画については、目標をどこに置くのか、それをどうやって達成していくのか、さらにどう評価していくのか、ということですが、その中でチェックの部分にもワーキングチームのメンバーが何らかの形で関わっていくことができればよいと思います。

私が普段から考えている中で、環境教育という言葉がありますが、教育というと大人が子供を、また先生が生徒を上から教え授けて育てるという感じがありますが、環境教育といった場合には、もっと広い意味で自然やその場の環境から学ぶということが環境教育だと思っています。心地よさを感じるといった経験を心に積み重ねていくことが大切です。100ページの書物よりも1回の体験が大切であり、そういった経験の蓄積がその人の行動を決めていくのだと思います。

小磯委員

自分の環境に対する思いと、現実の社会にかなりのギャップを感じていました。逆に皆さんから見ると、私の意見の方がギャップがあるのではないかと思います。これで、本当にこれで大丈夫なのかな、環境が守れるのかといった不安があります。自分の伝える力のなさ、表現力のなさが不甲斐ないです。でも、一人の100歩より百人の1歩ということで、この計画が前進して少しでも環境が良くなっていけばよいと思います。

村上委員

この会議に参加させていただき、私も1市民の立場としては、地球環境に対する危機感の認識が非常に高まり、これを教員という立場で子供たちにどういった形で伝えていけばよいのかを色々考えながら皆さんの意見を聞かせていただきました。これまでは視野が狭く、環境＝環境教育・環境学習にしか考えなかったところもありましたが、問題意識を持つという意味では、子供の頃からアクションを起こしていくことが必要だと思いました。

学校の現場では、環境教育は3～6年生が取り組む総合学習の中の1ジャンルということでしか学習する場がありませんし、環境を柱として総合学習に取り組んでいない学校もあります。そういう意味から言うと、学校の現場で環境をもっと重要視して、国語や算数の教科と同じように、子供たちに学びや体験をさせていくことが必要だと思いますが、理想に近づくためのステップがまだまだ遠いのかなとも感じています。

素案の中にも学校版環境ISOの取組校を増やすとありますが、上からの押し付けではなく、自主的に取組んでいければいいなと思いました。

今後は、環境教育・環境学習という立場でメンバーの皆さんなどがボランティアとして、学校教育に協力して頂くことも実現すればよいと思います。

江川委員	<p>私も学校代表として参加させていただきましたが、私自身も環境に興味があり、これまで色々な活動を行ってきました。しかしながら学校全体として進んで環境教育に取り組もうとしても、学校の現場では今、それ以外の課題がたくさんあり、積極的に取り組むことが出来ない状況にもあります。ですから、色々な角度から環境教育に取り組むとありますが、時間や人の支援も受けないと実際には出来ないと思います。学校版環境ISOに取り組むことによって学校がどう変わるのか、セミナーや講座の開催によってどういうリーダーを育成するのかがもっと分かるようになれば取り組みやすいと思います。</p>
林委員	<p>私も農業者として環境の中でも緑と土と空気と全てに関係しています。先程2人の先生からお話がありましたが、実は、今日私のところで陽西中の稲刈り体験がありました。今年で4年目になりますが、校長先生が水田の水の役割を生徒達に教えていました。水を張っておくことが温暖化防止にも役立つことや食糧の重要性まで分かりやすくお話していました。陽西中には760人程の生徒がいて、これまでは抽選で100名程しか参加できませんでした。校長先生は来年から学年別に全員参加させたいとおっしゃっていました。中学2年生の体験学習もこれまで毎年4、3、5名だったのが、今年は13名来たいということで嬉しく思っております。私は学校の先生ではありませんが、これからも農業者の立場から子供たちに環境の大切さを教えていくことができると思っております。</p> <p>また、私は市街化区域内の健康の森の近くにおります。臭気の問題でいうと堆肥を使うとどうしても匂いが出てしまいます。また、平地林も1,000坪程残っていますが、大木になりますと、その落ち葉が近くの民家に落ちるわけです。そのようなことを最初はあまり何とも思わなかったのですが、よく考えてみると、周りからは近所の生活環境を損なっているというふうにも見られているのかなと思っています。ですから都市の中に緑を残すといっても現実的には難しいことも色々あります。無農薬で堆肥を使って農地を作りましょうといっても、周りの市民の理解がどれだけ得られるかという問題もあります。</p> <p>ワーキングチームは今日で終了しますが、私は10月から市で策定する「食糧・農業・農村基本計画」の委員になりました。ワーキングチームの代表として皆さんと話し合ったりサイクル、特に堆肥センターについては提言していきたいと考えていますので、今後とも宜しくお願い致します。</p>
児玉委員	<p>私もこれまで環境の取組をしてきましたが、大人の意識を変えるの難しく、特に問題意識の高くない大人を変えていくのは非常に難しいと実感しています。やはり、将来を担う子供の頃からの環境教育ということに主眼をおいています。青年会議所では、こども未来会議といって、市内の小中学校から代表を1名ずつ出してもらって、自然体験を通して環境への意識を高めても</p>

らい、それを各学校にフィードバックをしてもらうということを目的として取り組んでいます。明日も冒険センター山登りとごみ拾いを行います。また、田川で空き缶を拾ったり、花壇づくりとして、各学校にプランターを配布して花を育ててもらい、中央分離帯に植えることによって、ごみを捨てる人も減れば良いなということで取り組んでいます。学校の先生も忙しく環境に十分な時間を割くことが出来ない中で、一人では無理ですから、みんなが少しずつ環境教育に携わっていくことができると考えております。

手塚委員

私はエネルギー産業に携わる事業者の立場として、素案の中の配慮指針にも細かく書かれていますが、事業所の責任としてどういうことが出来るのかを考えながら参加させていただきました。

一つの例として、大気環境のところでいいますと、現在は低公害車としての天然ガス自動車の普及に向けて取り組んでおります。都内ではかなり進んでいますが、県内ではまだ導入環境が揃っていませんので、エネルギー産業としてクリーンなエネルギーを普及していくという一つの使命と考えております。

また、環境教育について皆さんからお話が出ていましたが、ちょっと遠いのですが環境エネルギー館というのがありますので、こども未来会議の生徒さんもぜひ体験していただければ良いなと思っています。また、江川先生の学校にもお伺いして、ボランティアとして環境教育に携わることでお話も進めさせていただいていますし、エコクッキングなども開催していますが、今後はもっと人数や回数を増やすことも考えていきたいと思っております。

いづれに致しましても、具体的に進めていることもありますし、これから進めていかなければならないこともありますので、エネルギー産業の1事業者として、責任を持ってやっていきたいと思っております。

鈴木委員

私も事業者の立場で参加させていただきました。私たちも省エネということで色々な形でPRをしてきたのですが、この度の原子力の問題では社内でも私共のように原子力に携わっていない者にとっては、今までなぜ隠していたのか強い憤りを感じています。原子力は危険なものですが、それを訓練等を踏まえてどのような形で安全に利用していくかをPRしてきたのですが、結果的にずさんな体制にあり、この場を借りまして皆さんにお詫びいたします。

今日は、東京電力の環境行動レポートやガイド、栃木支店の取組をお配りさせて頂きましたが、現在、新エネルギーとしての栃木県内の太陽光発電の契約が増加し、この1年間で500口ほど増えています。決して安いものではないのですが、環境への関心をもって設置していただいているということで、市民一人ひとりということではないかもしれませんが、環境に良いものを選んでくれる人が少しずつ増えていることを実感しています。また、グリー

	<p>ン電力ということで、電気料金の中から 500 円を預らせていただいて、その倍の金額を拠出して何か環境に役立てようとやっておりますが、こちらの方も徐々にご理解、ご協力をいただいております。</p> <p>環境基本計画につきましては、私も会社では総務部門におりますので、事務局の方から見ますと、よくこういうものを作るときに、単なる打ち上げ花火で終わってしまうのか、それとも今後の活動の中で生かしていけるのかを事務局もすごく苦勞なされたのではないのでしょうか。内容的に見ても、柳の枝にどれくらいの蛙が飛びつけばいいのか、すぐに飛びついてしまえるようなものは作っても意味がありませんし、全然飛びつけないようであってもみんな見向きもしません。そういう意味ではどれくらいのものを作るのかというジレンマの中で、素晴らしい素案ができたのではないかと思います。</p>
<p>森本副リーダー</p>	<p>私は副リーダーを仰せつかって、はじめは私の知識の限りを述べさせていただければいいのかと思っていましたが、1 年間ではみんなが同じ土俵に立つことは難しいですし、環境の中でも皆さんの関心ごと也不同じます。しかし、今回のように行政、市民、事業者、学校の先生が一堂に会して協議をしていくことの意義はとても大きかったと思いますので、今後のことに期待したいと思います。また、環境基本計画をまとめるにあたっては、事務局の方も随分と苦勞をなされたと思いますが、この計画を生かしていくためには、私たち市民の役割も非常に大きいものと思っております。自分としては力不足だったかなとも感じておりますが、本当にありがとうございました。</p>
<p>三宅リーダー</p>	<p>私も環境に関して最たる知識も無い中でリーダーを仰せつかりまして、始めてみたらこれは大変だと思ったのが率直な感想でした。3～4 回目あたりでは、これではとてもまとまらないと思い、リーダーシップが十分とれず皆さんにご迷惑をお掛けしましたが、何とか素案までたどり着いたのは、やはり皆さんの根底にまとめていこうという気持ちがあったからだと思います。今回の環境基本計画は、他県に誇れる素晴らしいものができたと思っています。あとは、これを私たちが実行していくことだと思います。9 回に渡りまして、色々ご支援をいただき感謝を申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。長い間ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後に環境企画課長よりご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
<p>事務局 (環境企画課長)</p>	<p>昨年 12 月の第 1 回の会議から本日まで、ほぼ月 1 回のペースでありましたが、長期間にわたりまして、計画素案の作成にお骨折りをいただき、本当にありがとうございました。お蔭様で、この素案につきましては、庁内の委員会や審議会でも、よくここまでまとめている、整理ができて良い計画だとの評価をいただいております。市長にも、今日、この素案について説明をしてまいりましたが、大変お世話になった、皆さんにくれぐれもよろしくとのこ</p>

三宅リーダー	<p>とでございました。</p> <p>今回のような計画策定の方法，市民や事業者代表者の皆さんと，市が，意見や智恵を出し合いながら素案を作成する，ということは，宇都宮市として，今回がはじめての試みでありました。私どもといたしましても，そういうことから多少の不安もございましたが，チームリーダーを中心としたメンバーの皆様方のご協力によりまして，大変実りの多い成果が得られたものと受けとめております。今後，市の他の部内の計画策定にも，今回のような方法が普及していくことになるのでは，と思っております。</p> <p>環境基本計画につきましては，これ以降，シンポジウムやパブリックコメントなどを経て，委員会や審議会にて原案を固め，来年2月に，正式に策定される予定でございます。もちろん，計画の策定も大事ですが，さらに大切なのは，計画をどう実行していくかであります。来年度からは，その実行のための推進組織を設置し，具体的な行動を市域全体に広げていくことが課題となってくると考えております。ワーキングチームは，今回をもって，一応終了となりますが，どうか引き続きまして皆様のお力を，そちらでもまた，生かして頂きたい，場合によっては，また何かとお願いをすることもあろうかと思っております。そういうことから，今後ともよろしくお願いを申し上げまして，お礼のごあいさつといたします。長い間，大変ありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして，第9回 最後のワーキングチーム会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>
--------	--